

# 平成28年度「桑絹商工会経営発達支援計画」検討結果報告書

評価基準	A	目標を達成することができた。(100%以上)
	B	目標を概ね達成することができた。(80%～99%)
	C	目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%～79%)
	D	目標を達成することができなかった。(30%未満)

No.	項目	目標	実績	%	PDCA 評価	実績報告及び次年度以降への取組の見直し等	
						内部コメント	検討委員会
I	経営発達支援事業の内容						
1	地域の経済動向調査に関すること【指針③】				C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走型小規模事業者支援推進事業を有効に活用し、以下の内容を行う。</li> <li>・HP更新実績がないのは平成27年12月にデータを保管する機器の故障により更新ができなかったため。本事業によりモバイル版対応の新HP作成した。(ネット検索の現状:スマートフォン等70%,パソコン30%,グーグル公表)</li> <li>・小規模事業者を取り巻く外部環境が把握できる情報及び事業者、消費者の情報収集、分析、調査報告書の作成を外部専門家に委託し、事業者に提供する。・今後はHPに掲載希望の事業者を継続的に募り、事業者の認知度向上に役立てる。また県や市が公表する各種調査結果をタイムリーに掲載し、事業者がいつでも閲覧できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ更新回数、調査対象事業者数ともに目標値に大きく及ばなかったため、評価をCとした。</li> <li>・次年度以降、市や県等が公表する調査結果等を定期的に更新していただきたい。</li> <li>・調査結果のホームページでの掲載については、必要とされる情報を公開しているかという観点から、指標として更新回数よりも、閲覧回数等の方が適しているのではないかという意見もあった。</li> <li>・事業者への聞き取り回数については、巡回訪問を定期的に行い、件数を増やしていただきたい。</li> </ul>
	①ホームページ更新回数 栃木県や小山市などが公表する調査結果等を掲載する。	8回	0回	0%			
	②調査対象事業者数 管内建設業小規模事業者を対象に半年に一度(年2回)地域内の新規住宅建設動向及びリフォーム状況調査を経営指導員等4名の巡回訪問等により行う。	30者	13者	43%			
2	経営状況の分析に関すること【指針①】				B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マル経融資斡旋事業者数7者・記帳機械化事業者29者、持続化補助金申請者9者、計45者の経営分析を実施。</li> <li>・掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数はマル経融資斡旋、持続化補助金にかかる事業者を対象に実施。</li> <li>・分析に係る巡回数は持続化補助金活用者は2回実施し、記帳機械化事業者及びマル経事業者は1回実施。</li> <li>・経営分析に係るセミナー出席者数は商工連主催の青年部員を対象とした、ブロック別開催のセミナーに1者参加。</li> <li>・分析ツールはマル経、持続化補助金については各所定の書式を活用し、記帳機械化事業者はネットde記帳を活用。また、職員向けセミナーで学んだ中企庁の「ローカルベンチマーク」ソフトも活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営分析事業者数は目標値を上回ったものの、巡回訪問延べ回数が目標値に届いていないため評価をBとした。</li> <li>・少ない訪問回数で多くの事業者の経営状況の分析を実施できており、効率よく実施できているといえる。</li> <li>・但し、今年度は、小規模事業者持続化補助金等の施策を利用したことが効率の良さにつながっているため、次年度以降は、調査報告書等を活用して巡回訪問の際の経営状況の分析を強化していただきたい。</li> <li>・また、経営状況分析者の掘り起こしについても継続して実施していただきたい。</li> </ul>
	①経営分析対象者掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数	20回	16回	80%			
	②経営分析事業者数 重点支援対象者である建設業小規模事業者、マル経斡旋、補助金申請、記帳機械化利用者等で該当事業者を計上	35者	45者	128%			
	③経営分析に係る巡回訪問延べ回数 目標は経営分析事業者数×2回を想定した。	70回	54回	77%			
	④経営分析に係る講習会・セミナー受講者数 商工連が主催のブロック別経営計画策定セミナー受講者数	1者	1者	100%			

No.	項 目	目標	実績	%	PDCA 評価	実績報告及び次年度以降への取組の見直し等		
						内部コメント	検討委員会	
3	<b>事業計画策定支援に関すること【指針②】</b>					B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続化補助金申請に係る事業計画書の作成支援の実施。9者中7者。</li> <li>・計画策定支援に係る訪問回数は、1者×2回実施。</li> <li>・計画策定に係るセミナー出席者数は商工連主催の青年部員を対象とした、ブロック別開催のセミナーに1者参加。</li> <li>・創業支援者は1者。個別に計画策定、市場調査、競合店調査等を支援。計画のブラッシュアップ及び、実現可能性を高めるため、よろず支援拠点を紹介。補助金制度も紹介。</li> <li>・创业者の掘り起こしが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最重要指標である事業計画策定事業者数について、目標をおおむね達成できているため、評価をBとした。</li> <li>・次年度以降は、事業者への定期的なアプローチや、成功事例の紹介等を通じて、計画策定の必要性を認識してもらおう活動をしていただきたい。</li> <li>・创业者支援については、市や金融機関等とも連携し、创业者の掘り起こしを図っていただきたい。</li> <li>・また、市全体で創業塾等を開催することにより、創業希望者の掘り起こしにつながるものと思われる。</li> </ul>
	①事業計画策定事業者数(見直しを行った者も含む) 持続化補助金申請者を対象とした。	8者	7者	87%				
	②計画策定支援に係る巡回訪問延べ回数 目標は事業計画策定事業者数×3回を想定した。	24回	14回	58%				
	③計画策定支援に係る講習会・セミナーの受講者数 商工連が主催のブロック別経営計画策定セミナー受講者数	1者	1者	100%				
	④創業支援者数	2者	1者	50%				
4	<b>事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】</b>					B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗確認者数は持続化補助金申請7者及び創業支援1者の計8者の計画策定事業者に実施。</li> <li>・進捗確認に係る訪問数は持続化補助金採択2者×4回、不採択5者×1回、創業支援者1者×3回実施。</li> <li>・持続化補助金採択者には、補助事業の実施を進捗確認し計画の実効性を高める。創業支援者には作成した計画がスケジュール通りに進むよう、金融支援も含め実施した。</li> <li>・伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、専門家を派遣して計画の実行を支援した。(2者)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施支援に係る進捗確認事業者数は目標を達成しているものの、実施支援に係る巡回訪問延べ回数が目標に達していないため、評価をBとした。</li> <li>・本計画では、事業計画の実施を事業者に寄り添って支援することを目標としているため、事業者に対し、定期的なフォローをすることで、計画の着実な実施につなげていただきたい。</li> </ul>
	①実施支援に係る進捗確認事業者数 目標は事業計画策定事業者(内創業1者)8者とした。	8者	8者	100%				
	②実施支援に係る巡回訪問延べ回数 目標は事業計画策定事業者×4回を想定した。	32回	16回	50%				
5	<b>需要動向調査に関すること【指針③】</b>					B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走型小規模事業者支援推進事業を有効に活用し以下の内容を行う。</li> <li>・マクロ的な観点や多様な視点からの需要動向が把握できる情報収集、分析、調査報告書の作成を外部専門家に委託し、事業者に提供する。調査報告書には左記③の調査結果も盛り込む。</li> <li>・情報は事業者の業種によりHPより収集し必要に応じ提供した。</li> <li>・③消費者アンケート調査は管内のリフォーム需要動向を把握するため、本会主催の「商工会ふれあい祭り」時に来場者30名を対象に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供事業者数、消費者アンケート調査回答者数は目標を達成したものの、情報提供回数が目標を大きく下回ったため、評価をBとした。</li> <li>・アンケート調査回答者数は、30者と母数が少ないため、より実態を反映し、信頼性の高い調査結果とするため、母数を増やしていただきたい。</li> <li>・そのためには、地域で開催されるイベントを活用することが効率的であると思われる。</li> </ul>
	①情報提供事業者数 事業計画策定事業者を目標数とした。	8者	8者	100%				
	②実施支援に係る情報提供回数 目標は情報提供事業者数×2回を想定した。	16回	8回	50%				
	③消費者アンケート調査回答者数 「商工会ふれあい祭り」時の建設部会による催し時に経営指導員等が来場者に対するリフォーム状況アンケート調査を実施する。	30者	30者	100%				

No.	項 目	目標	実績	%	PDCA 評価	実績報告及び次年度以降への取組の見直し等		
						内部コメント	検討委員会	
6	<b>新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】</b>					B	<p>・伴走型小規模事業者支援推進事業を有効に活用し、リフォームチラシ折込事業を行い、新たな需要の開拓を支援。チラシ掲載事業者は20者。当桑絹地区を中心とした消費者に折込配布し、加盟事業者の認知度向上を図り顧客の掘り起こしを支援する。①は当チラシによる取引成約に係る顧客情報の取得件数であり、目標45者に対し現在36者。取引成約金額は12,638,900円。</p> <p>・②は下野新聞への広告を掲載し、新たな需要の開拓を支援。目標4者に対し3者が登録。</p> <p>・③～⑥については各対象事業者に巡回訪問等により個別に事業内容等説明し事業の実践を勧めたが、今年度は実施者なし。</p>	<p>・「スローライフ推進事業」実践事業者数等は実績を残すことができなかったものの、リフォームチラシ折込事業を通じて、12百万円を超える取引成約金額を実現しており、新たな需要の開拓に寄与しているため、評価をBとした。</p> <p>・リフォーム事業者の支援では、各事業者の特徴を発信すると同時に、事業者間の横のつながりを生み出す活動ができることより新規需要の開拓に寄与するものと思われる。</p> <p>・③～⑥については、個別のアプローチに加えて、事例紹介やチラシを通じて広く周知を図っていくことが望ましい。</p>
	①	リフォーム取引成約に係る顧客情報取得件数	45者	36者	80%			
		リフォームチラシ折込事業掲載事業者の取引成約時に顧客の住所等や取引金額、工事など情報収集する。						
	②	「地域密着リフォーム事業」新聞広告掲載事業者数	4者	3者	75%			
	③	「スローライフ推進事業」ガイドブック掲載事業者数	1者	0者	0%			
	④	「ワクワク系の店づくり事業」実践事業者数	1者	0者	0%			
	⑤	ビジネスマッチング商談会参加事業者数	1者	0者	0%			
⑥	「ニッポンセレクト. Com」出展事業者数	0者	0者	-				
II	<b>7 地域経済の活性化に資する取組</b>					A	<p>・①②は当会が主催で実行委員会を4回開催。(事前に3回、事後に報告会として1回)出展者数は目標どおり5者を達成し、地域住民に対する企業のPR促進が図れた。来場者数は開始当初雨天の影響もあり約500名であったが地場産品である本場結城紬等のファッションショーも盛会に行われ認知度向上に貢献できた。</p> <p>・③は当会においては地元染色業者(伝統工芸士)による藍染めハンカチ作製体験を実施し、PRを図るとともに賑わいの創出に貢献した。</p> <p>・④は当会加盟店数は34者。地域住民の消費喚起を促し事業所の認知度向上を図り地域経済の活性化に貢献した。</p> <p>・⑤については、3月に調査を実施予定であり現在は未実施。</p> <p>・他、桑・絹ふるさと祭り等に参加協力し地域の賑わい創出に貢献した。</p>	<p>・「桑絹商工会ふれあい祭り」来場者数が目標に大きく届かなかった点については、悪天候による影響が大きく、その他の項目は目標を達成していることから、評価をAとした。</p> <p>・各イベントについては、域外から人を呼び込む効果があり、地域経済活性化に資する取り組みであるといえる。</p> <p>・引き続き出店者数の確保に努めていただきたい。</p> <p>・また、今回実施した項目以外にも、取組が増えていくことが望ましい。</p> <p>・加えて、ホームページ等を通じた情報発信を強化していただきたい。</p>
	①	「桑絹商工会ふれあい祭り」出展者数	5者	5者	100%			
	②	「桑絹商工会ふれあい祭り」来場者数	1050名	500名	47%			
	③	「寺野東遺跡縄文まつり」来場者数	610名	800名	131%			
	④	「小山市プレミアム共通商品券」加盟店数	34者	35者	102%			
	⑤	「小山市プレミアム共通商品券」前年比売上向上企業数	7者	3月に実施	-			

No.	項 目	目 標	実 績	%	PDCA 評価	実績報告及び次年度以降への取組の見直し等	
						内部コメント	検討委員会
<b>Ⅲ 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組</b>							
8	他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること ①職員協議会第5支部に所属する8商工会の職員同士の情報交換(外部の支援機関も招聘する) ②商工会第5ブロック連絡会議にての情報交換 ③県連が開催する各種セミナーでの情報交換 ④マル経協議会での地域の経済動向、資金需要等の情報交換 ⑤地域内金融機関との情報交換		未実施 実施 実施 実施 実施		B	・①は1/31商工連職員を講師に迎えセミナー後、情報交換会実施予定。 ・③県連主催の各セミナー時に支援事例等や課題等の情報交換実施。 ・④各地域の経済動向や資金需要動向について情報交換。 ・⑤地域内金融機関である足銀や足利小山信金と地域内の資金需要等について情報交換実施。	・①の外部の支援機関も招聘した情報交換が実施できていないため、評価をBとした。 ・支援ノウハウ等の情報交換は、小売業でいうところの「仕入」にあたる活動であるため、引き続き定期的な実施が求められる。
9	経営指導員等の資質向上等に関すること ①県連が開催する職種別セミナーへの参加 ②中小企業大学校への職員派遣 ③経営指導員Web研修の受講 ④セルフアセッサーセミナーへの参加 ⑤内部勉強会の開催 ⑥OJTの実施(先輩職員や専門家に同行し支援を行う)		実施 実施 未実施 未実施 実施 実施		B	・①上記③に同じ ・②専門的知識を習得、向上させるため7月に職員派遣を実施。 ・⑤伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、年3回外部講師を招聘してスキルアップ勉強会を開催した。 ・⑥伴走型小規模事業者支援推進事業を活用し、専門家派遣では職員が同行し支援スキルの向上を図った。	・概ね実施できているものの、Web研修の受講等が未実施であるため、評価をBとした。 ・「ローカルベンチマーク」等を更に活用して、実践の場を増やし、資質向上等につなげていただきたい。 ・Webに関しては、今後更にニーズが高まるため、是非積極的に知識等を習得していただきたい。
10	支援ノウハウの組織的な蓄積		一部実施		C	・個々での蓄積に留まり組織的には至っていない。	・内部勉強会等を通じて、個々が資質向上を図れる環境整備に努めていただきたい。
	事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること ①アクションプランによる実践状況の判定 ②「桑絹商工会経営発達支援計画」検討委員会を設置し、PDCAサイクルを有効に進める(年1回開催)		実施			・検討委員会を開催し実績報告及び評価、見直しを含めた検証を受け、改善を図りPDCAサイクルを有効にまわして行く。	

<桑絹商工会経営発達支援計画検討委員会 構成名簿>

【委員】

No.	役 職	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
1	委員長	東 健司	(株)UI志援コンサルティング経営コンサルタント 中小企業診断士
2	委員	神 戸 泉	小山市 経済部 商業振興課 課長

【立会人】

No.	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
1	長谷川 敬	栃木県商工会連合会

【事務局】

No.	役 職	氏 名
1	主任	小森谷 孝雄
2	主任	仲 沢 悠